ベルトルト・ブレヒトの仕事 | 3

bertolt brecht

ベルトルト・ブレヒトの仕事

3

ブレヒトの詩

責任編集＝野村 修

河出書房新社

ブレヒトの詩
ベルトルト・ブレヒトの仕事 | 3

定価　1200円

1972年7月5日　初版印刷
1972年7月10日　初版発行

編集責任　野村　修

発行者　中島隆之

発行所　河出書房新社
東京都千代田区神田小川町3—6　電話東京 292—3711
振替東京 10802
印刷・中央精版　製本・中央精版
落丁本・乱丁本は，おとりかえいたします

© 1972 KAWADESHOBO-SHINSHA. INC. Printed in Japan

BRECHT, GEDICHTE
Auswahlausgabe in 6 Bänden aus dem Werk von Brecht
(Für Gliederung und Inhalt gilt die dem Vertrag beigefügte Übersicht)
© Suhrkamp Verlag. Frankfurt am Main. 1972
Alle Recht vorbehalten
This book is published in Japan by arrangment
with Suhrkamp Verlag
through Orion Press. Tokyo
日本語版翻訳権・河出書房新社所有　無断転載を禁ず

1398-413103-0961

ベルトルト・ブレヒトの仕事

3

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

ブレヒトの詩

長谷川四郎・野村修＝訳

目次

1 ベルトルト・ブレヒトの家庭用説教集 7
2 詩 1918—1933 73
3 歌、詩、合唱 107
4 詩 1933—1938 149
5 スヴェンボルの詩 209
6 詩 1939—1948 267
7 劇作と映画からの歌 315
8 詩 1948—1956 343
○訳注 379
○解説にかえて——野村修・長谷川四郎 389
○詳細目次 i

1　ベルトルト・ブレヒトの家庭用説教集

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

あかんぼ殺しのマリー・ファラーについて

1

マリー・ファラー、生まれた月は春四月だが
みなしごで、未成年、賞罰なく、クル病、
ふしだらとは見えなかったというわさだが
このとおり殺しました、あかんぼを、と自供。
かの女はいう、二カ月ばかりのころだったか
あやしげな地下室に住む女の手を借り
二本の注射で堕胎しようとしたのだが
だめだった、ただひどく痛いめをみたばかり。
　しかしきみたち、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

2

でも、とかの女はいう、支払いはきちんとした、
もう隠せないので、おなかをきつくしばった、
アルコールを胡椒をぶちこんで飲んでみた
その効は、おっそろしく下痢しただけだった。
からだはひとめにたつほどにふくらんできて
はげしく痛んだ、ことに皿洗いをすると。
そのころには、かの女はまだしっかりしていて

マリア様にお祈りした、どうぞお慈悲をと。
　きみたちもまた、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

3

しかしお祈りはどうやら、ききめがなかった。
願いごとにはほどがある。その日が迫れば
朝の祈りのたびにめまいがし、汗が出た
冷汗というものも出た、御像を仰げば。
とはいえ誰も、そうとは悟りはしなかった
かの女のお産の月が迫っているなどと。
だってさ、聞かされても誰が信じられたか
ぶきりょうなあの子に誘いの手があるなどと。
　そしてきみたち、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

4

その日、とかの女はいう、明けたか明けぬうちに
階段を拭く、と、おなかに爪をたてられた
ような気が。よろめく、振りまわされる、痛みに。
でもなお、なんとかかの女はそれをこらえてた。
一日じゅう、たとえば干しものをほしながら
かの女は脳をしぼる、辿りついた考え——
生もうかしら。とたんに心臓がまわりから

しめつけられる。夜、やっとかの女は屋根裏へ。
　しかしきみたち、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

5

横になったと思うと、もういちど呼ばれた、
――雪が降りこんでるから拭きとっておくのよ。
おわったら一一時。ながい一日だった。
どうにかおちつけたときは、もう暗黒の、夜。
かの女はいう、生まれたのは男の子。それも
ほかの男の子とどこもちがってやしない。
だけど女がほかとちがってた。といっても
かの女をわるくいえるわけなどありはしない。
　きみたちもまた、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

6

ぼくにはわるくはいえないが、しかしいったい
この男の子がどうなったかは聞かせよう
(何ひとつ、とかの女もいう、隠しだてしない)、
そうすりゃ、ぼくやきみの性根も見えてこよう。
寝床に、とかの女はいう、這いこむとまもなく
たえがたい嘔気に襲われた、でもじいっと
そんなときどうすればよいか知るはずもなく

ただこらえてた、叫びごえだけはあげまいと。
　そしてきみたち、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

7

死ぬ思いをしながら――だって嘔気ばかりか
部屋の寒さもひどかった――ふらふらかの女は
手洗いに立つ、と、そこだった（それが何時か
憶えがない）、遠慮なく子が生まれでたのは。
朝が近づく。どうしたらいいかかの女には
こうなってはまるっきりケントウがつかない
だが雪が舞いこむ、屋根裏の手洗いには、
手はこごえる、じっと子をだいてもいられない。
　そしてきみたち、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

8

そこで寝床に戻りかけると、思いがけず
それまでおとなしくしてたのに、子はさわいで
泣きだした。なぜかいらいらして、いたたまれず
かの女は子を打った、叩いた、両のこぶしで。
すると、とかの女はいう、やがて静かになった。
それから夜のしらむころまで子に添い寝した
だきしめて、けれどもう子にはいきがなかった。

朝、その子を洗濯ものに埋めておいた。
　しかしきみたち、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

9

マリー・ファラー、生まれた月は春四月でも
最後、死んだのはマイセンの監獄のなか、
私生児を生み、殺し、罪せられた——としても
いったいどのいのちが弱点をもたないか。
きみたち、もし懐姙すればメデタイといい
きみたち、産の床はいつも清浄だった、
さあれ、ろくでなし呼ばわりはひかえてほしい
罪はおもいが、かの女の苦もまたひどかった。
　それだからこそ、待ってくれ、怒るのははやい
　生きものはみな、たすけあわねば生きられない。

von der kindesmörderin marie farrar

息づかいの礼拝式

1
むこうから一人の婆さんやってきた

2
くうパンのない婆さんだった

3
パンは軍隊がくってしまった

4
婆さんドブにころげおちドブは冷たかった

5
もう空腹もなくなった

6
しかるに森の小鳥ら沈黙守り
なべての枝々に静けさあり
なべての山の頂きに
さゆらぐ息づかいの気配とてなし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com